

市民と議会

つながる

多摩市自治連合会

総務常任委員会

多摩市自治連合会の
みなさんに聞きました

4月30日(木)午前、多摩市自治連合会の役員の方々と総務常任委員会の委員とで懇談し、自治会の活動内容や運営する上で工夫されていることなどについてお聞きしました。



地域の担い手不足、 いま何が起きている？

総務常任委員会(以下、総務)：地域の担い手不足、いま何が起きていますか？

多摩市自治連合会(以下、自治連合会)：少子高齢化の影響で、担い手不足はどの地域でも深刻です。小規模な自治会からは「もうやめたい」という声も。ただ、防災や見守りなど、地域で支え合う機能はなくせません。

総務：実際にどんな困りごとがありますか？

自治連合会：会員が減って高齢化が進み、80代の方が会長を務める地域もあります。「自治会に入るメリットがわからない」と退会する人もいます。一方で、孤独死に気づくのが遅れてしまうなど、つながりが薄れることで起きる問題もあります。



「やりたい人が関わる」 地域づくりへ

総務：うまくいっている取組みはありますか？

自治連合会：永山6丁目自治会では自治会改革プロジェクトを2年前に立ち上げ、組織と役割を見直し、役員の負担を減らしてデジタル化を進め、「やりたい人が関わる」形に変えました。お祭りも実行委員方式にして参加しやすくしました。若手に役割を用意し、主体的に関われる環境づくりを心がけています。これらの取組みを進めた結果、自治会会員が増え

ています。

総務：子育て世代はどう関われそうですか？

自治連合会：夏祭りや秋祭り等は世代間交流の大きな機会です。また、ワンコインランチや児童館とのイベントなど、気軽に参加できる場がきっかけになります。口コミで広がり、参加者同士のつながりも生まれています。かまどベンチの活用など、地域で一緒に食事をする体験が関係づくりに寄与します。



デジタル化と これからの地域づくり

総務：デジタル化は進んでいますか？

自治連合会：デジタル回覧板の導入などで便利になっていますが、スマホ操作に不安がある方へのサポートや個人情報管理の課題もあります。リアルな対面での取組みと組み合わせる進めることが大切です。

総務：これからの地域づくりに必要なことは？

自治連合会：自治会は「やらされるもの」ではなく、「地域活動のプラットフォーム」として取組み方を見直すことが大切かもしれません。無理のない関わり方や、ふらっと寄れる居場所づくり、新しい仕組みも取り入れながら、誰もが関われる地域づくりをめざしていきたいと考えています。